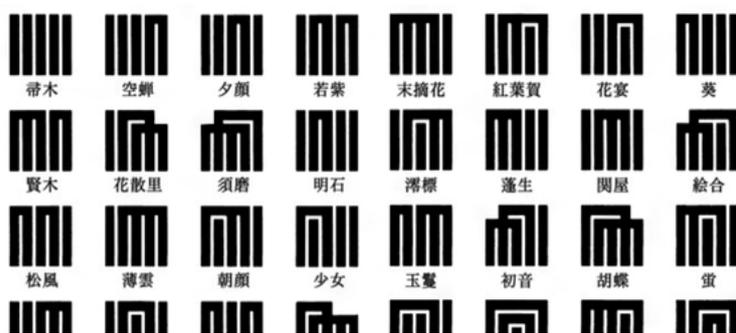


男声合唱曲「絵日傘」を考える

ところどころの櫛形は ^{くしがた} 源氏香 ^{げんじこう}といふもんよ…

今回男声合唱団ヴィヴ・ラ・コンパニーが取り組んでいる、中勘助作詩・多田武彦作曲「絵日傘」に出て来る歌詩「ぱつと開けば麻の葉に 黄色い雲や赤い雲 ところどころの櫛形は 源氏香といふもんよ」の「いふもんよ」とは何だろうか。詩人が子どものために買って来た絵日傘の鮮やかな絵柄を描写している箇所である。メンバーから歌詩について疑問が出された。「いふもんよ」とは、「いふ紋よ」かそれとも「いうものよ」か。

源氏香とは、和歌や古典文学を主題に香りを組む「組香」の主題のひとつ。後水尾天皇の時代に考案されたといわれている。五種の香をそれぞれ五包ずつ計二十五包作り、任意に五包を取り出して焚いた香の異同を聞き分け、五本の縦線



に横線を組み合わせた図で示す典雅な遊びである。図は五十二種あり、源氏物語五十四帖のうち、桐壺と夢浮橋を除く各帖の名が付けられているという。

男声合唱組曲『中勘助の詩から』

I 絵日傘

中勘助 作詩
多田武彦 作曲

やや早く、素朴に [♩=120]

のきにつるした

とおり すがりの からかさ や かさ や

し ぶ の

かさの かさの

shibuga kiki ni itte

shibuno oi ga kiki ni itte kodomo no

ni oi ga shibuno oi ga kiki ni itte

mf mp cresc. mp cresc. mf

ここで、<とのとののブログ>の〔多田武彦の「 mismatch 」について(2)〕の考察を引用してみると、深沢眞二著「なまずの孫 1ぴきめ」では、つぎのように触れているという。

深沢はもう一点、「『源氏香』はいずれのテキストでも『源氏模様』と指摘しており、これも確かにそう。「源氏模様」とは「源氏香の図を模様にしたもの」であり、ここでは絵日傘の櫛形模様を例えているが、「源氏香柄」「源氏香之図」が正式らしい。

多田は広辞苑で詩の読み方を調べているが(後述)、広辞苑に「源氏香」はあるが「源氏模様」「源氏文様」はない。専門書として岡登貞治編「文様の事典」をひくと、項目名は「源氏香図文」とある。「文様の事典」なので項目の最後は「文」が多い。実質的に「源氏香図」という項目名。「源氏香は香合せの一種である。…模様としては「源氏香図」だが、符号も「源氏香」と呼ぶ。また、wikipediaも「源氏香の図」を項目名としている。なので「ところどころの櫛形は 源氏香といふものよ」でおかしくない。

「源氏模様」はコトバンクを参照すると「精選版 日本国語大辞典」に「浮世草子・好色文伝受(1688)三「空蟬といへる名木の櫛、源氏模様の手帕(ふくさ)に包」と江戸期の用法として示されている。今はネットがあるから簡単に調べられるけれど、普通の辞書だけでここにたどり着くのは簡単ではない。おそらく多田は、源氏模様は一般用法ではなく正式には源氏香(図)と考え、詩人の了解のもと改変したのではないか。歌詩で「源氏香」には「げんじこう」とルビがついていることにも注意しておきたい。

また、「源氏模様と いふものよ」なら七五調だが、「源氏香と いふものよ」だと六五調になり、そのため多田は「いーふものよ」と「い」に8分音符2つをあてて七五調にあわせている。次の節から冒頭のメロディーに戻るため、このフレーズを少しリタルダンドしてゆっくり歌わせる効果を考えたのかもしれない。

<https://ameblo.jp/tonotono-57-oboegaki/entry-12723924675.html>

楽譜巻末に掲載された歌詩は右に示したようである。

一般に、作曲家は作曲の都合上、元の詩に手を加えることはよくあることだ。詩人が存命中であれば直接相談することもできるが、既に亡くなっていた場合は果たしてどうするか。自身の責任の下で勘案するしかないのだろうか。

「絵日傘」についても、右に示した巻末の歌詩自体すでに楽譜に付けられた歌詩とはわずかながらずれがある。

たとえば、楽譜のなかでは「絵日傘さして遊びましよ」と書かれているが、原詩と巻末歌詩では「絵日傘さして遊びましよう」となっている。また、楽譜と巻末歌詩で「源氏香といふもんよ」は、元の詩では「源氏模様といふもんよ」といった具合である。

いくつか調べてみたが、「ばつと開けば麻の葉に 黄色い雲や赤い雲 ところどころの 櫛形くしがたは 源氏香げんじこうといふもんよ」の「いふもんよ」は、「いふものよ」の意であると結論づけたい。

とほりすがりのからかさ屋
軒につるした傘の
渋の匂が気に入って
子供の絵日傘かってきた
みいちゃんよつちゃんいらつしゃい
絵日傘さして遊びましよう
ばつと開けば麻の葉に
黄色い雲や赤い雲
ところどころの櫛形は
源氏香といふもんよ
さしてまはせば朝蔭の
風も涼しいかざ車
横にまはせばくるくと
淀の川瀬の水車
おててつないで歌うとて
うちのお庭で遊びましよ

男声合唱団ヴィヴ・ラ・コンパニー 加藤良一

2026年2月23日

[Back](#)

[2026年のYARO会Topへ](#)

[Home](#)

[Home Pageへ](#)